



INDEX

- 1) 今月の1枚: 「BOKOLANI UPENDO GROUP」
- 2) JICA in Tanzania : 研修員受入事業
- 3) クリコニ? : 3月のできごと
- 4) 次長の目: 「途上国生活」
- 5) カリブ・クワヘリ

(2) JICA in Tanzania:

「研修員受入事業」(山本所員)

前月号の「水」の話題に続き、研修事業も担当している山本所員の登場です。タンザニアにおける研修事業と日本でされる研修コースの紹介です。

(1) 今月の1枚: 名嘉山隊員より

「BOKOLANI UPENDO GROUP」



2004年に設立されたママ(年配の女性)たちで構成されるBOKOLANI UPENDO GROUPです。

ダルエスサラーム市テメケ区の2つのKata(町内会のような小単位の地域)を中心に、学校に行けない子供、HIV 陽性の子供、エイズで夫を亡くした女性の支援を行っています。月に一度、支援家庭に支給するウガリ粉、砂糖、米、油、石鹸、制服、ノートなどはママたちのポケットマネーから出ています。グループとしてはバティック布の製作販売で資金の足しにしているものの、彼女たちも各自の仕事を持っているため、グループの予算確保は厳しいのが現状です。

限られた予算の中で定期的な支援を行うことは容易ではありませんが、彼女たちのコツコツと地道に支援を続ける姿から、地域住民だけでなくKata や区役所の職員らも信頼を得ており、グループへの寄付金や物資の援助も少しずつ増えてきています。まだまだ対象となる子供・女性は多く、予算も不足していますが、彼女らの地域に根差したUPENDO(愛)あるサポートが今後も続いていくことを願っています。

(エイズ対策隊員)

みなさんご存知のとおり、JICAは2008年10月1日に新JICAとして生まれ変わり、技術協力、有償資金協力(円借款)、無償資金協力の3つの援助手法を一元的に担う総合的なODA実施機関となりましたが、従来のJICAが主に実施してきた技術協力の中でも最も歴史があるのが、「**研修員受入事業**」です。

「研修員受入事業」って??

いくつか種類があるのですが、主なものは「本邦研修=日本で研修を行うもの」です。これは、開発途上国の人々(主として、行政官や技術者など)を「研修員」として日本に招聘して、日本の持つ経験や技術、知見を学んでもらい、自国の課題解決に活かしてもらうというものです。また、日本だけでなく、同じ研修コースに参加した他国の研修員から学ぶこともたくさんあります。研修員受入事業は、まさに日本国内で行われている国際協力の現場のひとつなんです!

JICAでは、国内に10箇所以上ある国際センター/支部を中心に、世界中の様々な開発途上国から毎年約8,000名の人々を「研修員」として受け入れています。そして、タンザニアからは、毎年100名ほどの人々が「研修員」として日本を訪れ、様々な分野・内容の研修を受けています。

JICAタンザニア事務所では、研修に参加した人々が研修の成果を活かしてタンザニアの課題解決に取り組みやすいように、できるだけタンザニアで活動している専門家や協力隊員のカウンターパートや、JICAプロジェクトにおけるタンザニア側関係者に研修へ参加してもらうようにしています。つまり、タンザニア国内での協力に、日本国内での協力も組み合わせるといことですね。



2009年度に日本国内で行われる研修予定コースのうち、タンザニアが対象国に含まれているコースをご紹介しますので、研修員受入事業を、ぜひ積極的にご活用ください！

(*研修コースの全てではありません)

私は、タンザニア事務所に赴任する前は茨城県にある筑波国際センターで研修員受入事業を担当していました。世界各国から来た研修員が日本で生活し学ぶ中で見せる反応は面白いものです。その1つをちょっと、ご紹介します。

日本では当たり前(?)の習慣の、**電気の消灯**。例えば、あなたがトイレを出るとき、トイレ内に誰も居なければ電気を消しますよね?でも、これが当たり前でない国が世界には結構あるようです(タンザニアはどうでしょう?!)。

ある国から来た研修員は、日本人が会議室やトイレなどで(本当に)こまめに消灯している様子に感銘を受け(?!)、自分はこの習慣を帰国後に広めたいと話していました。彼の参加していた研修は・・・そう、「地球温暖化対策」なのでした(省エネ/エコ活動ですね)。

研修員が日本で学び気づくことは、何も崇高な理論や最新の技術ばかりではないのです。私たち日本人が普段は当たり前のように取り組んでいることの中にも、外国から来た研修員にとっては「ナイスアイデア」なものもあるのかもしれないですね。

(以上)

JICAセンター	分野	コース名	開始	終了	人数
札幌	運輸交通	道路技術	2009年7月	2009年9月	1
札幌	教育	初等理科教授法(A)	2009年5月	2009年7月	2
札幌	保健医療	AIDSの予防及び対策(B)	2009年5月	2009年6月	1
札幌	保健医療	アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政	2009年6月	2009年8月	2
帯広	農業開発・農村開発	農業のITシステム化技術	2010年1月	2010年4月	1
東北	資源・エネルギー	電力系統技術	2009年8月	2009年10月	1
東北	資源・エネルギー	アフリカ地域別研修「リモートセンシング技術を活用した資源探査の基礎」	2010年2月	2010年3月	1
筑波	環境管理	気候変動への適応	2009年9月	2009年10月	1
筑波	情報通信技術	ウェブベースの情報発信・管理システム運用技術	2009年10月	2009年11月	1
筑波	農業開発・農村開発	アフリカ地域 園芸作物・普及	2009年5月	2009年9月	2
筑波	農業開発・農村開発	かんがい排水プロジェクトの持続的管理	2009年6月	2009年11月	1
筑波	農業開発・農村開発	農業普及企画管理者	2009年7月	2009年9月	1
筑波	農業開発・農村開発	アフリカ地域「陸稲品種選定技術」	2009年7月	2009年10月	2
筑波	農業開発・農村開発	農業政策立案のための農業統計企画・設計	2009年7月	2009年9月	1
筑波	農業開発・農村開発	プロジェクトカウンターパート合同研修「灌漑排水のための施設管理・水管理」	2009年8月	2009年9月	2
筑波	農業開発・農村開発	アフリカ地域小型草食家畜生産を通じた農村開発	2009年9月	2009年11月	2
筑波	農業開発・農村開発	小規模農家用適正農機具開発普及	2010年2月	2010年10月	1
筑波	農業開発・農村開発	稲作技術開発	2010年2月	2010年11月	1
筑波	農業開発・農村開発	かんがい排水・農村開発	2010年2月	2010年10月	1
筑波	農業開発・農村開発	アフリカ・コメ生産研究(長期)	2010年3月	2012年3月	1
筑波	農業開発・農村開発	アフリカ地域 小規模水稻・普及	2010年3月	2010年10月	2
東京	ガバナンス	官庁統計の作成及び公表のための情報通信技術の適用	2009年5月	2009年7月	1
東京	ガバナンス	上級人事管理セミナー	2009年6月	2009年6月	1
東京	ガバナンス	上級警察幹部セミナー(A)	2009年6月	2009年6月	1
東京	ガバナンス	官庁統計の解析、解釈及び公表	2009年7月	2009年9月	1
東京	ガバナンス	国際税務行政セミナー(一般コース)	2009年8月	2009年11月	1
東京	ガバナンス	国際税務行政セミナー(上級コース)	2009年9月	2009年10月	1
東京	ガバナンス	交通警察行政研修	2009年10月	2009年11月	1
東京	ガバナンス	税関行政	2009年10月	2009年11月	1
東京	ガバナンス	政府会計検査セミナー	2010年2月	2010年3月	1
東京	ガバナンス	ガバナンス/公共政策(長期)	2010年2月	2012年3月	1
東京	運輸交通	道路行政セミナー	2009年9月	2009年10月	1
東京	運輸交通	橋梁総合コース	2009年10月	2009年12月	1
東京	運輸交通	都市公共交通コロキウム	2010年1月	2010年2月	1
東京	教育	教育評価セミナー	2009年10月	2009年11月	1
東京	経済政策	産業振興政策 アジアの経験をアフリカへ	2010年2月	2010年2月	1



JICA センター	分野	コース名	開始	終了	人数
東京	資源・エネルギー	エネルギー政策(B)	2009年5月	2009年5月	1
東京	資源・エネルギー	安定供給型水力発電	2009年5月	2009年7月	1
東京	資源・エネルギー	東南部アフリカ電力プール機能増強	2009年11月	2009年11月	1
東京	自然環境保全	アフリカ地域野生生物保護管理	2009年8月	2009年10月	1
東京	自然環境保全	生物多様性情報システム	2009年9月	2009年10月	1
東京	水資源・防災	統合的水資源管理	2009年7月	2009年8月	1
東京	水資源・防災	水道管理行政(B)	2009年9月	2009年9月	1
東京	都市開発・地域開発	総合都市交通計画・プロジェクト	2009年9月	2009年11月	1
東京	保健医療	保健衛生管理	2009年5月	2009年7月	1
東京	保健医療	診断とモニタリングのための HIV 感染検査マネジメント	2009年6月	2009年7月	1
東京	保健医療	5S-TQM による保健医療サービスの質向上	2009年9月	2009年10月	2
東京	保健医療	アフリカ地域 リプロダクティブ・ヘルス行動変容戦略ワークショップ	2009年11月	2009年12月	1
横浜	ガバナンス	地方自治体による民間産業の活性化セミナー	2009年11月	2009年12月	1
横浜	運輸交通	港湾開発・計画	2009年6月	2009年8月	1
横浜	運輸交通	港湾戦略運営セミナー	2009年10月	2009年11月	1
横浜	運輸交通	港湾物流・港湾環境保全セミナー(アフリカ圏)B	2010年1月	2010年1月	1
横浜	都市開発・地域開発	建設技術の開発・応用セミナー	2009年5月	2009年6月	1
横浜	都市開発・地域開発	建設機械及び建設施工監理	2009年9月	2009年11月	1
横浜	都市開発・地域開発	公共事業の計画・管理・評価	2009年9月	2009年11月	1
横浜	保健医療	将来予測に基づく保健医療政策立案	2009年8月	2009年9月	1
中部	教育	学校保健	2009年5月	2009年7月	1
中部	教育	生命農学(長期)	2010年3月	2012年3月	1
中部	資源・エネルギー	石油・化学及び火力発電プラントの設備管理と技術基準	2009年9月	2009年11月	1
中部	水資源・防災	上水道無収水量管理対策	2009年10月	2009年12月	1
中部	都市開発・地域開発	参加型地域社会開発のプロジェクト計画・管理	2009年7月	2009年9月	1
中部	都市開発・地域開発	参加型地域社会開発の理論と実践	2010年1月	2010年3月	1
大阪	ガバナンス	地方自治体行政強化(参加型地域開発)	2010年2月	2010年3月	1
大阪	ガバナンス	英語圏アフリカ地域地方行政改革プログラム	2010年3月	2010年4月	4
大阪	運輸交通	アフリカ地域 道路維持管理技術(A)	2009年7月	2009年8月	1
大阪	環境管理	下水道維持管理・都市排水	2009年8月	2009年11月	1
大阪	都市開発・地域開発	NEPAD インフラ支援(コンクリート構造物メンテナンス)	2009年9月	2009年11月	1
大阪	保健医療	HIV/AIDS の診断・予防・対策モデル	2009年8月	2009年8月	1
大阪	保健医療	アフリカ新生児・小児保健医療	2009年10月	2009年11月	1
大阪	保健医療	アフリカ地域看護教育	2010年1月	2010年2月	1
大阪	民間セクター開発	中小企業振興政策(C)	2010年2月	2010年3月	1
大阪	民間セクター開発	投資環境法整備(B)			1
兵庫	環境管理	地方自治体における廃棄物処理(A)	2009年8月	2009年10月	1
中国	教育	中等科学教育実技	2009年8月	2009年9月	2
中国	農業開発・農村開発	乾燥地における土地・水資源の適正管理と有効利用	2009年6月	2009年8月	1
中国	民間セクター開発	アフリカ地域 中小零細企業支援機関育成	2010年1月	2010年3月	1
九州	教育	教員養成課程における教育改善方法の検討(英語圏アフリカ)	2009年11月	2009年11月	1
九州	都市開発・地域開発	アフリカ地域産業振興(一村一品)	2010年3月	2010年4月	1
沖縄	資源・エネルギー	配電網整備	2009年9月	2009年10月	1
沖縄	情報通信技術	電子政府推進のためのデータベーススペシャリスト養成	2009年7月	2009年12月	1
沖縄	情報通信技術	保健医療分野における IEC 活動(B)	2010年1月	2010年4月	1
沖縄	情報通信技術	電子政府推進のためのプロジェクト管理	2010年3月	2010年6月	1
沖縄	保健医療	英語圏アフリカ地域格差是正のための保健行政システム改善	2009年8月	2009年10月	2
沖縄	保健医療	地域保健システム強化による感染症対策(B)	2010年1月	2010年3月	4
沖縄	保健医療	エビデンスに基づく公衆衛生学と保健政策への応用	2010年1月	2010年2月	2



(3)く・り・こ・に? 3月のできごと

Kulikoni? とはスワヒリ語で「何があったの?」の意味です。3月のJICA活動の現場をちょっと覗いて見ましょう。Karibu!(ようこそ!)

[州保健行政システム強化: RRHM]

3月2-7日: 保健福祉省 RMO/DMO 年次会合への参加

ムベヤ州にて、全国の州医務官(RMO)と県医務官(DMO)を招いた保健福祉省の年次会合が開催されました。コスト削減のため、同省幹部の参加が大幅に削られる中、RRHMはどうか参加・発表の機会を得ることができました。RRHMが直接対象とする全国21州の州保健局(RHMT)はもとより、そのカスタマーである133県の県保健局(CHMT)への広報の絶好の機会です。RRHMのパンフレット、ニュースレターを全国から集まった276名の参加者に一斉配布しました。CPのMr. Muta(保健セクター改革事務局)、福土、杉原による合同発表も好評を博し、RRHMの宣伝効果は大だったと言えます。(副総括: 福土恵里香)



[州保健行政システム強化: RRHM]

3月11-12日: 保健福祉省コーチング研修

保健福祉省のCMSS(中央から州RHMTへのサポート型・スーパービジョン)スーパーバイザーを対象に第一回コーチング研修をダルエスサラーム市内にて実施しました。

コーチングの概念はタンザニアではまだ新しいですが、実施後の率直な感想は、「コーチングはリーダーやマネジャーにとって大変パワフルなアプローチになるかもしれない」ということでした。

熱心にメモを取る参加者の一人、保健セクター改革事務局長のDr. Njau(写真)も、「Inspiring, energizing, facilitating! We can do it!」と、すっかり洗脳された



ようでした。

(副総括:

福土恵里香)

[帰国研修員同窓会: JATA]

3月20日: 2008年度年次総会

2008年度の活動を総括する総会がダルエスサラーム市内で開催されました。80名ほどの日本で学んだ研修員たちがタンザニアの各地から集い、前半は「世界経済危機のタンザニアへの影響」というピックスでJATAメンバーである経済学者が発表。



後半は日本国大使を迎え、1年間の活動報告を行いました。大使を前に、簡単な日本語も交えての自己紹介も全員行いました。大使からは「このネットワークを大切にしていきたいですね」とのコメントもありました。

[帰国研修員同窓会: JATA]

3月27日: 理数科教育ワークショップ

JICAは日本や他国で行われている理数科教師の研修も支援しており、今回は、理数科教育に焦点をあてたワークショップが開催されました。鳴門大学で教育修士号を取得し、現在タンザニア教育研究所でカリキュラム作成などに携わっているMr. Wangerejaが中心となり、JATAメンバー以外の理数科教師や教育省の中等教育担当者も参加し、理数科教育の問題点・改善点が話し合われました。理数科教員である協力隊員の小澤さんも「日本の理数科授業」について発表し、参加者の多くの賛同を得ました。今後のJATA&JOCVの連携も期待できる第1歩になりました。

[研修員事業]

3月25日: 長期研修生選定試験

今年も長期研修生の選定が行われています。これはJICAと外務省が支援をし、国際開発の修士号を取得するコースです。午前中は選ばれた6名が数学の試験を受け(写真)、その試験に合格した人が午後の面談試験を受けました。合格発表は7月の予定で、毎年1~2名が日本の政策研究大学院へ送られます。政策研究大学院では、日本人と他の途上国からの留学生と混じったクラスで勉強をする予定です。今後の国際開発を担う人材がタンザニアから旅立っていく準備を進めています。



2月26日、3月3日：5案件 署名式

[農業セクター開発プログラム(ASDP)
事業実施監視能力強化計画：M&E 技プロ]
3月24日、27日：全国10箇所でワークショップ

M&E 技プロが支援している ASDP モニタリング・評価作業部会では、タンザニアの全県/州を対象に ASDP の現場レベルの進捗を把握する質問票の説明・配布を行いました。昨年実施した各県を対象とするデータの収集では一部の県からは不適切な回答もあったことから、今年は昨年提出された数値の問題点を具体的に示すとともに、同じ指標の数値を経年で追い ASDP の進捗を計ることを説明しました。参加者からはデータを適切に収集・管理する重要性が良くわかったという声が聞かれました。今年は県から提出されるデータのさらなる質の向上が期待されます。

(写真：アルーシャにて)



タンザニアで新 JICA として初めての円借款の借款契約及び無償資金協力の署名式が行われました。中川日本大使とともに JICA タンザニアの升本所長が、ザンジバル革命自治政府大統領府財務経済大臣と(2/26)、本土の財務経済省次官と(3/3)の間で、計5案件の契約(計約50億円、約630億シリング)に署名しました。

多数の地元メディアが取材する中、中川大使に次いで升本所長がスピーチを行い、新 JICA の誕生によって各種支援スキームを有機的に組み合わせ一層戦略的な援助展開が可能であることを強調しました。



これらの支援は、タンザニア政府の財政基盤強化やインフラ整備に活用され、いずれも技術協力との相乗効果が期待されます！

- * 無償資金協力「第二次ザンジバル市街地給水計画」
- * 無償資金協力「第二次オイスターベイ送配電施設強化計画」
- * 無償資金協力「ムワンザ州及びマラ州給水計画(詳細設計)」
- * 貧困削減戦略支援無償(2008年度)
農業セクター、公共財政管理、地方行政改革 II、地方自治体開発交付金に関するバスケット・ファンドへの財政支援
- * 有償資金協力「第6次貧困削減支援貸付(一般財政支援)」

終了案件

2008年3月に、現地研修3件、NGO委託1案件が3年間の協力期間を終了しました。事業の成果と、今後の展望をご紹介します。

**がんばれ村の行政官。支えよう地域社会の良
い統治！～研修：グラスルーツ指導者研修フェ
ーズ2(MEO)～**

地方分権化が進むタンザニアでは村の行政機能の強化が求められています。村の行政長官は近年着任した若手行政官が多く、日々の行政活動を行うための能力強化が求められていました。そこで、JICAは2003年から2008年の6年間に、首相府地方自治庁が行う村行政官研修の支援を行ってきました。今後は同様の研修が政府と援助機関のバスケット・ファンドによって継続される予定です。

地域の教育を支える県行政官。挑戦は続く！

～研修：教育行政管理能力強化研修～

地方分権化によって2004年から初等教育の運営管理が中央政府から地方自治体(県)に委譲され、県の教育行政官が学校運営や教育情報の整備等を任されることになりました。JICAは教育職業訓練省の要請を受け、教育運営開発機構(ADEM)による全国約110県の教育行政官の研修を支援して来ました。2008年からは中等教育も県に分権化されることとなった現在、今後も県の教育行政官の挑戦は続きます。(2009年から2011年まで本支援フェーズ2を実施予定。)
(写真:2009年1月)



市民の力で貧困削減を！～NGO委託：

市民社会組織のデータ利用・調査能力向上支援～

JICAは、タンザニア国家貧困削減支援戦略のモニタリング・プロセスへの市民社会の参画を強めることを目的として、市民社会組織(CSO)の代表格である REPOA (Research on Poverty Alleviation)を通じた地方CSOの能力強化を支援してきました。各地のCSOがコミュニティの貧困削減を促進するための能力や地方自治体の予算監視する機能を強化するための支援を、研修や実証調査を通じて行って来ました。



タンザニアは2009年、2010年に貧困削減戦略の見直しと次の戦略の策定という大仕事を控えています。国民のための貧困削減戦略とするために、育成されたCSOの活躍が期待されます！(写真:2009年3月のCSO研修)

**子供の命を助けたい！早く正確な医療を目指して。
～研修：小児急性期医療～**

タンザニアの病院で亡くなる子供の多くが搬送後48時間以内に亡くなっています。JICAは長年に渡り、ムヒンピリ国立病院小児科に対する協力を行い、正確で迅速な診断に基づき重篤な小児患者の早期集中治療ができる体制を構築し、子供の院内死亡率を2004年14.4%から2008年9.5%まで下げたという成果を挙げました。2006年からはこの成果を広く普及するため、ムヒンピリ国立病院が全国の病院の医師と看護師に対する研修を実施する支援を行いました。



終了プロジェクト：(技術協力)
[タンザニア国道路メンテナンス監理能力支援プロジェクト]

タンザニア道路公社(Tanzania National Roads Agency: TANROADS)は、2001年に設立された幹線道路(国道&州道)の建設・維持管理を担当する実施機関です。タンザニアにおいて道路ネットワークは経済開発の基盤としても重要視されており、TANROADSが担う役割は非常に重要なものとなっています。このTANROADSの調達・契約・プロジェクトマネジメント能力の強化を目的とし2005年3月にスタートしました。

これまで日本は公共事業省(現在のインフラ開発省)に個別専門家を派遣してきた実績はありますが、道路分野におけるプロジェクト型技術協力はタンザニアでこの案件が第1号です。

プロジェクト活動の後半には、より包括的なアプローチとして、TANROADSだけでなく、道路基金(Road Fund)、建設業者協会(Contractors Registration Board)も活動のスコープに組み入れられました。

日本の支援によるプロジェクト活動は2009年3月を持って終了しましたが、作成された道路メンテナンスのマニュアル(写真)は活用され、研修を受けた人材はそれぞれの場所で活躍しています。



開始案件

新しい技術協力プロジェクトも始まりました！
[よりよい農業開発計画作りと事業実施体制作り支援プロジェクト]

タンザニア農業の県レベルでの開発を支援するために、新しい技術協力プロジェクト(技プロ)が3月2日から始まりました。

本技プロは、本年2月で終了した「タンザニア国地方開発セクタープログラム策定支援調査」に続く支援事業の一つで、タンザニア農業全体を包括する農業セクター開発プログラム(ASDP)の主要コンポーネントである県農業開発計画(DADP)の効果的作成・実施の実現その支援体制強化を目的としています。

プロジェクトチームは、チーフ・アドバイザー/農村開発:新井文令以下3名(計4名)から成り、内2名が3月10日から現地入りし活動を開始しています。

タンザニアの農業セクターは、同国の経済発展・貧困削減・食糧確保の面で大きな期待が寄せられています。これまでは、ASDPの体制確立に努力が向けられてきましたが、今後は、その体制下、いかに具体的効果を上げていくかが問われています。チームは、政府側カウンターパートとの密接な共同作業により具体的な効果達成を求めて行きたいと考えています。

(写真: DADP 評価会)



(3) 次長の目：「途上国生活」

(長谷川次長)

タンザニアに赴任して、4月で10ヶ月になります。自分自身では、タンザニアの生活にそれなりに慣れたように感じますが、実際には事務所内での仕事が多いので、「どっぷりタンザニアでの生活に浸かっている」、という感じではない面もあります。しかし、仕事上でも、法律・契約に関する日本とタンザニアとの違い、生活上では住居に関するトラブル対応(依頼に対する回答振り、対応の遅さ、修理の仕方・後片付け等)のいろいろなところで、タンザニア流の対応にいららざる場面に、少なからず遭遇します。

このような生活の中で、ふっと、4年ほど前、日本で読んだ本のことを思い出しました。その本は、通勤帰りにいつもの本屋でなんとなく購入して、通勤電車の中で半分居眠りしながら読んだ本でした。

その本は、日本で市場調査を行うために来日した「インド人エリートビジネスマン」が日本での出来事を書いたお話です。最初にこの本を目にしたときは、「途上国の人々が日本に住むことは、日本人の生活様式との違いが大きいのでなかなかたいへん



だなあ」と感じた程度でした。

自分が以前タイに赴任していたときは、バンコクという大都会の中心街近くのアパートに住み、日本資本のスーパー(中身はほとんど日本のスーパーと同じ)に買い物に行き、夜は赤提灯に飲みに行き、週末には家族で「伊勢丹」でショッピング、家でも日本のテレビを見て読売新聞を読む、といった生活でした。通勤に片道1時間以上かかり、物価も高く、使用人も運転手もない日本での生活よりもはるかに住みやすいと感じていました。このような経験から、タイは(特にバンコクは)発展途上国ではない、と頭では理解しているつもりでも、「日本人が発展途上国で生活するのはそんなに悪くない」と思い込んでいました。

しかし、タンザニアに来て、人々のペースが自分のペースとまったく違うこと、お店の選択の幅が限られていること、職場でも家でも停電、断水、機械の故障などのトラブルが続き、どうしてもイライラしてしまいます。そんなきっかけでこの本のことを思い出したようです。インド人ビジネスマンが日本で感じたストレスと同じような感覚を、タンザニアで自分も感じたような気がしました。

ところで、この本の詳細は以下の通りです。

喪失の国、日本 インド・エリートビジネスマンの「日本体験記」
M.K.シャルマ 山田和 訳 文春文庫 (657円+税)

本の紹介にかこつけて愚痴を並べてしまいました。関心をもたれた方・ちょっと読んでみたいという方には、お貸ししますので遠慮なくお声をかけください。

(以上)

リレーエッセイ
~ Rafiki yangu 私の友だち in Tanzania ~

(19-4次隊 宇野亮一さん)

我が親友、自称 Mr. Cool ことカリム。
そう呼ぶ人はいまだ見たことがありませんが...
その実は自転車屋を営みつつ孤児院を手伝い、
「子供たちは誰にも優しくされない、
ギャングになってしまう。
誰かが助けてあげれば、子供たちは立派に育ち、
タンザニアはよりよくなって、世界もよりよくなる」
と真剣に語る、hot な男です。
二人で毎週孤児院に行っていますが、
皆様も来ればきっと大歓迎されますよ。
カリババガモヨ!



今回は cool なイリングで hot なピリピリを丸齧りする
久保さんをお願いします。

(5)カリブ・クワヘリ ~ようこそタンザニアへ! お元気で! さよなら~

~!!!ようこそ!!!~

新しい協力隊員5名が到着しました。現在、ダルエスサラームで語学研修中です。

初めまして、20年次4次隊で3月25日に到着しました。簡単に自己紹介します。

大竹優子: 看護師 任地: マサシ

<一言>女は度胸!! よろしくをお願いします。

片山剛: コンピュータ 任地: ムトワラ

<一言>健康第一!!

春木茂紀: 薬剤師 任地: ムワンザ

<一言>英語、スワヒリ語頑張ります!

青木伸江: 村落開発普及員 任地: ソンゲア

<二言>全力!! Karibu Songea!!

大下龍二: 自動車整備 任地: ソンジョンベ

<一言>Ninataka mpenzili!

Pamoja! です。



～！さようなら！お元気で！～

「新人」のレッテルをはがす時期になりました。
OJT(研修)としてタンザニアで活動した三好さんも今月でタンザニアを離れます。

2008年10月から半年間、皆様には大変お世話になりました。この半年間「農業」を軸に企画調査員業務補助、現場研修等貴重な体験をさせていただきました。中でも最も印象に残っているのはやはりタンライスプロジェクトでの現場研修です。毎日のように村人や KATC (Kilimanjaro Agricultural Training Centre) の教官、専門家の方々と語り合い築き上げてきた「現場を大切にする思い」は、これからの業務にも必ずや活かしていけると思っています。まだ大好きなタンザニアを離れる実感はわかりませんが、きっとすぐに恋しくなるでしょう。機会を作ってまた帰ってきます。それでは、Asanteni sana. Kwaherini!



現場研修で灌漑スキームを視察した際の様子

JICA タンザニア事務所： P.O.BOX 9450 Dar es Salaam

Tel: :255-22-2113727-30、 Fax: :255-22-2112976 <http://www.jica.go.jp/tanzania/>

パモジャ (Pamoja) 編集部： 皆様からのご意見や写真、Goodな情報の提供をお願いします！

AdachiFumiko.TZ@jica.go.jp

